



一隅を照らす運動総本部だより
No. 52



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<http://ichigu.net>

◎海外支援先団体青少年招待 スタディーツアー

一隅を照らす運動総本部では、令和元年八月三日～五日の日程で、インドの「パンニャ・メッタ協会」、タイの「ドウアン・プラティープ財団」の十三～二十歳の男女十十人を日本に招き、海外支援先団体青少年招待スタディーツアーを実施した。

「二隅を照らす運動」発足五十周年を記念し、それぞれの団体より青少年を日本に招待し、宗教の垣根を越えて世界平和を祈る行事である八月四日に比叡山上で開催される「比叡山宗教サミット」三十二周年の記念行事への参加や、同時期に開催される「天台青少年比叡山の集い」プログラムの一部参加など、日本の青少年との交流も積極的に企画し行った。

タイ及びインドから来日する青少年には、日本という国の文化に触れ、また同世代間の交流の中から何かを感じ取ってもらいたいと願うと同時に、日本の青少年にもこの交流を通じて国際感覚を養うきっかけとしてもらいたいと考えて実施した。

招待した各団体は、一隅を照らす運動の取り組み地球救援事業の一環として支援を継続している団体である。パンニャ・メッタ協会が運営する孤児院「パンニャ・メツ

タ子供の家」は、長年にわたり教育里親支援に取り組んでいる。

ドウアン・プラティープ財団が取り組むニューライフプロジェクト「生き直しの学校」チユンポーン校」では、次代を担う人材育成をテーマとして劣悪な家庭環境や薬物中毒から保護された青少年を収容し、社会復帰させるための共同生活を行う施設である。

初日には、比叡山高等学校の生徒を招き、終日交流を行った。午前中は琵琶湖オーパルにて体験学習として、琵琶湖でのカヌー体験、ヨシ紙笛製作を行った。体験では高校生とタイとインドの青少年たちが一緒にグループとなり、ジェスチャーを用いながら積極的に交流を行った。最初はお互いに緊張が見られたが、カヌー体験にて一緒に体を動かし、ヨシ紙笛制作では高校生が作り方を教えるなど打ち解けていく様子が窺えた。午後には琵琶湖博物館見学を実施。午前中と同じグループごとに行動し、より仲が深まっている様子が窺えた。館内の展示品でタイとインドの青少年たちが気になったものをジェスチャーを用い説明しようとする様子が見受けられた。

二日目には、宗教の垣根を越えて世界平和を祈る行事である比叡山上で開催された「比叡山宗教サミット」三十二周年の記念

行事並びに、同時期に開催された「天台青少年比叡山の集い」への参加を行った。はじめに天台青少年と東塔、西塔、横川への諸堂巡拝を行い、日本の文化に直接触れる機会となった。その後、サミット記念式典に参加し夜には天台青少年とのキャンプファイヤーに参加し、それぞれの国の民族舞踊を披露するなど交流を行った。

三日目午前には、京都府にある三十三間堂に参拝し、嵯峨野観光鉄道トロッコ列車に乗車、午後には本運動のさらなる周知と活動の充実を目指し、広報宣伝及び実践活動として嵯峨野観光鉄道駅舎施設において、株式会社嵯峨野観光鉄道協力のもと、一般の方を対象に一隅を照らす運動キャラクター「しょうぐうさん」が出演する『しょうぐうさん体操』の実演イベントを開催した。舞台には『しょうぐうさん体操』の作詞・振付けを担当したラッキィ池田氏を招き体操をレクチャーしていただき、参加者一同動きを見よう見まねで、初めての体操に夢中になっていた。その後安田念珠店協力による腕輪念珠製作体験や新京極周辺を散策し全日程は終了した。

八月三日



ヨシ紙笛制作



カヌー体験



諸堂巡拝

八月四日



琵琶湖博物館



比叡山宗教サミット記念式典



諸堂巡拝



キャンプファイヤーの後、青少年の集いリーダーと



キャンプファイヤー

八月五日



しょうぐうさん体操イベント



三十三間堂参拝



念珠製作



しょうぐうさん体操イベント

特別公開講座を開催

一隅を照らす運動総本部では令和元年八月二十三日、比叡山高等学校体育館を会場に「一隅を照らす運動」発足五十周年記念特別公開講座を開催した。

一隅を照らす運動公開講座は、昨年で通算十八回の開催を数えた。本年は運動発足五十周年を記念して規模を拡大し、「一隅を照らす」「若い世代の人材育成」というテーマのもと、講師に青山学院大学体育会・陸上競技部長距離ブロック監督の原晋氏を迎え「箱根駅伝からの学び」と題して講演が行われ、一般の方々約五百名が集まった。

はじめに原氏は、自身の経歴を述べられた。中京大学を卒業後中国電力にて陸上競技部第一期生として競技生活を送るも、故障に悩み五年目に引退。その後十

年間ビジネスマンとして再スタートしトップセールスマンとして尽力。二〇〇四年に青山学院大学陸上競技部長距離ブロック監督に就任。二〇〇八年には三十三年ぶりに同大学チームを箱根駅伝に出場させた。さらに二〇一四年度監督就任十一年目に悲願の箱根駅伝初優勝を飾り、二〇一五年から四年連続総合優勝を果たすまでを話された。

監督に就任されてからはビジネスマン時代の経験を活かし、「大学スポーツを通じて社会に役立つ人材を育成する」ことを指針とし、チャレンジ精神を持つこと、「傍観者の発想をしない」「目標と理念を持つ」「他人に責任転嫁をしない」などを掲げて学生を指導、栄光の四連覇に結びついた経緯を語った。



原氏は「何をするにも失敗はなく無駄なことは一つもない。唯一の失敗というのは挑戦しないこと」「小さな失敗はたくさんしていい。なにもしないことこそ失敗であり、課題も反省も生まれない」と力強く述べられ、



作り方についての質問があった。それに対し原氏は、自らの経験に基づいた諸々のアドバイスがあった。

また、壇上に参加者を招き、走り方についてやトレーニングの方法などについて具体的な動作を示しながら、わかりやすい指導を行った。参加者一同、箱根駅伝での選手指導の実情や組織作りの方法などについての講演内容に感銘を受けた様子で、最後まで熱心に聞き入っていた。

「理念・ビジョン・信念を持つて行動するべき」と呼びかけられていた。

講演後、質疑応答の時間が設けられ、聴講者からチームワークの

一隅を照らす運動推進大会

○滋賀大会（部大会）

滋賀教区本部（山岡智恢教区本部長）では、令和元年六月十二日に滋賀県犬上郡の滋賀県立甲良養護学校を会場に愛大部檀信徒会一隅を照らす運動実践活動を開催し、



二十九名の参加者が集まった。

はじめに開会式が行われた。

開会式では、愛大部主事より今年五十周年を迎えた一隅を照らす運動の理念や意義について話された。その後、学校長より挨拶があった。担当教師より作業箇所の説明を受け、校庭のフェンス周囲の除草や立木の剪定伐採、グラウンドの除草作業をおこなっ



た。今後も年一回の部の活動として続けられる。

○兵庫大会



兵庫教区本部（荒樋勝善教区本部長）では、令和元年六月十二日に兵庫県篠山市のユニトピアささやまを会場に一隅を照らす運動発足五十周年記念兵庫大会を開催し、約三百名の参加者が集まった。

はじめに、荒樋教区本部長を導師に法楽が厳修された。法楽後、野花敏郎檀信徒会会長、荒樋教区本部長、杜多道雄天台宗宗務総長、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より挨拶、祝辞



が述べられた。

講演では、延暦寺一山伊崎寺住職上原行照阿闍梨を講師に「行」と題した講演が行われた。上原師は千日回峰行を自身の体験を交え紹介され、千日回峰行は周りの支えてくれる人がどれだけ大切かを気づかせてもらう行だと話された。最後に上原師より参加者全員に御加持がなされ大会は終了した。

○東京大会

東京教区本部（杜多徳雄教区本部長）では、令和元年六月十四日に東京都台東区の浅草公会堂を会場に第四十九回一隅を照らす運動東京大会を開催し、千名の参加者が集まった。



第一部では、叡山講福聚教会東京地方本部による和讃詠唱の中、式衆が入場し上野輪王寺門跡・寛永寺住職神田秀順門主の名代として寛永寺長膳浦井正明大僧正導師のもと法要が厳修さ



れ、挨拶がなされた。法要後、天台聲明音律研究会並びに天台雅楽会による聲明と雅楽がなされた。次に杜多徳雄教区本部長より挨拶、杜多道雄天台

宗務総長、小堀光實比叡山延暦寺執行、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より来賓の挨拶、杜多徳雄教区本部長より表彰状の授与がなされた。

第二部では、一隅を照らす運動広報大使露の団姫師を講師に「仏教落語 仏はきみをほっとけない」並びに「一隅を照らす」自分の持ち場で一生懸命」と題した落語・講演があり大会は終了した。

○三岐大会

三岐教区本部（森喜良教区本部長）では、令和元年六月十六日に三重県松阪市の松阪市農業屋コミュニティ文化センターを会場に天台宗一隅を照らす運動五十周年記念三岐教区推進大会天台聲明の響を開催し、五百七十名の参加者が集まった。

大会はコーラスゆずり葉による一隅を照らす運動テーマソング「さわやか星」にて開幕した。

はじめに森教区本部長導師のもと法要があり、森教区本部長、杜多道雄天台宗務総長、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長、真弓佳章天台真盛宗伊勢教区宗務支所長より挨拶がなされた。



第一部では、教区仏教青年会八名による「聲明のしらべ」と題した聲明公演が執り行われ、聲明を初めて聞く参加者はいへん感動された様子だった。

第二部では、榎本真美氏並びに工藤麻美氏による「日本の歌」と題したソプラノとピアノの演





約百名の参加者が来場された。開会式では、木村教区本部長道師のもと法樂があり、次に森定慈仁一隅を照らす運動総本部長、大西栄光四国教区宗議会議員より祝辞が述



奏がなされた。第三部では、真弓天台真盛宗伊勢教区宗務支所長並びに真盛楽所による「管絃講順次往生講式」が演奏され大会は終了した。

○四国大会

四国教区本部（木村俊雅教区本部長）では、令和元年七月十日に愛知県松山市の道後温泉ホテル椿館を会場に一隅を照らす運動発足五十周年四国教区推進大会を開催し、

べられ、日程説明がなされた。

第一部では、森定一隅を照らす運動総本部長を講師に「一隅を照らす運動五十周年にあたって」と題した講演があり、運動の成り立ちや思い、成果について、五十周年記念大会にむけての思いや概要について話された。

第二部では、一隅を照らす運動広報大使露の団姫師による「仏教落語」があり、会場は終始笑いに包まれていた。また、相談コーナーの時間も設けられ、相談された内容について笑いを交えながら真剣に応えていた。

最後に木村教区本部長より閉会の挨拶があり大会は終了となった。

○群馬大会

群馬教区本部（三浦祐俊教区本部長）では、令和元年七月十一日に群馬県高崎市の群馬音楽センターを会場に祖師先徳鑽仰大法会「一隅を照らす運動」発足五十周年記念第十二回「一隅を照らす運動」群馬大会を開催し、約二千名の参加者が集まった。

はじめに開会の辞が一隅大会副会長・神宮直仁檀信徒会連盟会長よりなされ、三浦教区本部長より歓迎の挨拶がなされた。来賓として杜多道雄天台宗宗務総長、小堀光實延暦寺執行より祝辞が述べられた。来賓



推進してきた合計八組に対して、三浦所長より表彰状が手渡された。場面転換を挟み、群馬保育連盟による「しょうぐうさん体操」が披露された。しょうぐうさんと一緒に四十名の園児たちが元気いっぱい体操をする姿に、会場も和やかな雰囲気包まれた。休憩の後、一隅を照らす運動広報大使露



祝辞の後、福聚教会奉詠舞と雅楽会奉奏と共に「平和祈願法要」が厳修された。三浦教区本部長導師のもと、壇上には法燈が安置され厳肅な雰囲気の中、平和祈願文が唱えられた。続いて、「一隅を照らす運動」実践者表彰が行われた。禅養寺寺献会や光琳寺武士七平氏など、長年に亘り寺院や地域に貢献し、一隅を照らす運動を

の団姫師による「落語家・まるこの仏道修行」と題した記念講演が行われた。僧侶を指すきつかけや落語を通した布教について、小咄を交えながら講演された。

その後、アトラクションとして北原朱夏氏による「歌謡ショー」、綾小路きみまろ師匠による「爆笑ミニライブ」が行われた。歌謡ショーでは「波に抱かれて」他三曲を熱唱、ミニライブでは風刺を交えての漫談で会場中を笑いの渦に包んでいた。

閉会に際し、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より「実践3つの柱」が斉唱され、引き続き都築玄澄教区本部会長より地球救援募金が森定本運動総本部長に手渡された。最後に一隅大会副会長である大谷卓弥伝道師会連盟会長より閉会の辞が述べられた。

○福島大会

福島教区本部（横山大哲教区本部長）では、令和元年七月二十三日に福島県郡山市の磐梯熱海温泉ホテル華の湯を会場に一隅を照らす運動発足五十周年記念福島大会を開催し、四百名の参加者が集まった。

第一部では、横山教区本部長より挨拶がなされ、杜多道雄天台宗宗務総長、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より祝辞が述べられた。

第二部では、子ども達が壇上にて、しよ



うぐうさん体操を披露した。

第三部では、浅草寺法善院住職塩入亮乗師を講師に「寄り添って生きる」と題した講演が行われた。また、テレビ番組「ぶつちやけ寺」の収録時の話などもされ参加者は興味深く聞いていた。



た。

第四部では落語家桂幸丸師匠による「人生はおもしろい」と題した講演が行われ会場が大きな笑いに包まれ大会は幕を閉じた。

○九州東大会

九州東教区本部（秋吉文隆教区本部長）では、令和元年九月一日に大分県別府市の



別府国際コンベンションセンターを会場に一隅を照らす運動発足五十周年天台宗九州東教区一隅大会を開催し、約五百名が来場された。

はじめに野中玄雄教区宗議会議員より開会の辞がなされ、教区仏教青年会による声明公演がなされた。



次に青山良安教区議会議長を導師に教区法要が厳修された。続いて、玄清法流琵琶、御詠歌・御詠舞、献

花がなされた。

休憩を挟み、杜多道雄天台宗宗務総長による「一隅を照らす」と題した講演が行われた。杜多天台宗宗務総長は、「一隅を照らす」を交えて現代の情勢や人々の振るま

いについて話され会場の聴衆は静かに聞き入っていた。

次に、延暦寺一山円覚院住職宮本相豊師による「仏に会う」と題した講演が行われた。宮本師は伝教大師の教えを受け継いだ数々の修行を、自身の体験を交え話され、会場は貴重な話に耳を傾けていた。

最後に、杜多天台宗事務総長並びに森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より十三名の檀信徒理事に表彰がなされ大会は終了した。

○陸奥大会

陸奥教区本部（千葉亮賢教区本部長）では、令和元年九月七日に岩手県西磐井郡の毛越寺を会場に天台宗陸奥教区第二部檀信徒会ミニ一隅会を開催し、五十名の参加者が集まった。はじめに、東日本大震災物故者追悼慰霊法要を四竈亮澄一隅運動教区本部理事長導師にて厳修し、合わせ



て毛越寺本堂内に安置されている陸前高田市の被災松蔵菩薩像にも焼香、真心よりの念仏を唱え、早期復興が祈願された。

また、「祖師先徳大法会

特別授戒会」と題し、千葉教区本部長より講話がなされた。伝教大師のお心、授戒の意義、菩薩としての生き方等をわかりやすく話され、会員一同「自己本来具有の仏性」を再確認し、菩薩の心掛けてポストにポストを尽くして、精一杯生き抜くことをお誓いされた。また、明年六月延暦寺にて厳修する「伝教大師一千二百年大遠忌・陸奥教区法要」についても話された。

写経は「延命十句観音経」を書写した。藤里侑生毛越寺法務部次長より写経の意義・所作・功德を学び、震災復興を祈念し、一字一字丁寧な心を込めて参加者一同書写された。

東日本大震災より九年目となるが容易に復興は進んでいない。また、最近起こって

いるあらゆる災害に対して、今後とも教区・一隅・菩提寺・檀信徒の連絡網を密に物心両面の支援を行い、早期復興祈願を継続することが大切だと声を大勢の参加者よりいただいた。参加者一同、我仏のごとく柔和な表情で、心安まる一隅会となった。

○九州西大会



九州西教区本部（嘉瀬慶文教区本部長）では、令和元年九月十二日に佐賀県鳥栖市の鳥栖市民文化会館を会場に一隅を照らす運動発足五十周年記念一隅を照らす運動九州西大会を開催し、約五百名が来場された。

はじめに嘉瀬教区本部長導師のもと法楽が厳修され、嘉瀬教区本部長、森定慈仁一隅を照ら

す運動総本部長より挨拶がなされた。

続いて、長崎県新上五島町教育委員会高橋弘一氏による「伝教大師の若き求法心を辿る」く五島列島の日本遺産山王山くと題した講演が行われた。高橋氏は、プロジェクトを用い新上五島町の紹介を他の日本文化遺産にふれつつ話された。

最後に、渋谷幸平氏並びに佐藤晶氏による清興「本場津軽三味線」の記念公演が行われ、会場は大いに盛り上がった。

一隅を照らす運動ニュース

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催

令和元年七月一日、天台宗務庁（滋賀県大津市）において令和元年度第一回「一隅を照らす運動」



を照らす運動」理事会が開催された。本理事会において、平成三十年度一隅を照らす運動の事業報告、各会計の決算等が審議・承認された。また、今回の理事会において顧問の改選があ

り、本会にて承認された。

【顧問】

小林隆彰師 延暦寺一山 滋賀院住職…再任
小暮道樹師 栃木教区 輪王寺住職…再任

◎日本ユニセフ協会へ支援金を寄託

令和元年八月四日、比叡山宗教サミット三十二周年「世界平和祈りの集い」（比叡山延暦寺）の開催日に合わせて、日本ユニセフ協会への募金寄託式が行われた。

この募金は、毎年八月に行われる「天台青少年比叡山の集い」に参加したリーダーと研修生の小中学生が出し合った募金と、全国から寄せられた浄財を合わせたもので、総額は二百万円。寄託式では、天台青少年比叡山の集いに



参加した研修生の代表から大樹孝啓一隅を照らす運動会長へ目録が、引き続き大樹会長から早見研日本ユニセフ協会専務理事に目録が手渡された。

【散華 デザイン変更のお知らせ】

一隅を照らす運動総本部では、現在大講堂や根本中堂、天女が描かれた散華を五枚一組にて販売しておりましたが、在庫数の減少に伴い来年度よりデザインを一新させていただきます。

ご理解の程、よろしく
お願い申し上げます。

